

総 会 宣 言 (案)

全国水平社創立100年を迎えて、新たな部落解放運動を創造するために、本日ここに市内11支部の兄弟姉妹が集い「2022年部落解放同盟京都市協議会定期総会」を開催し、差別の撤廃と人権が尊ばれる社会を目指し、福祉で人権のまちづくりに取り組むことを誓い合った。

昨秋の衆院選をはじめ今夏の参院選では、自公政権が安定多数を占めたのと同時に日本維新の会が躍進し、改憲勢力が3分の2を占めることになった。特に、憲法9条改憲は戦争のできる国づくりを目指すものであり、部落解放同盟として「戦争が最大の人権侵害」であることを社会に訴えて平和憲法を守らなければならない。さらにインターネットなどによる悪質な部落差別を根絶させるため、政府に人権救済や差別禁止の法整備を引き続き求めてこう。

一方、京都市内の各地の現状は、少子高齢化、若者の地区外流出などにより著しく活気が失われている。一昨年、市協まちづくり部会等での京都市との話し合いにより、「市営住宅ストック活用指針」が発表され、先に進められている4地区と合わせて改良住宅が整備された市内全地区の建て替え計画が明記された。今後は、「我がムラのことは我ムラで決める」という強い決意で地域活動の活性化が重要になる。

私たちの闘いの原点はムラである。地道な世話役活動を日常活動の基軸に据え、生活、福祉、教育、就労、人権啓発などの課題を住民要求として日常生活圏域の人々との協働により地域共生社会を実現させることである。差別の痛みや生きづらさをよく知っている私たちだからこそ、人権を視座とした新たなまちづくりをすすめていこうではないか。

さらに、来春に予定されている統一地方選は、平井としき府連書記長（府議）4選と推薦候補の必勝にむけて断固闘うことを、右、宣言する。

2022年8月9日

2022年部落解放同盟京都市協議会定期総会